

- 問1 平安時代末期の東北地方において、産出される金や北方貿易による経済力を背景に、平泉を中心に独自の文化を栄えさせた一族の名前と、その拠点となった地名の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
1. 北条氏と小田原 2. 奥州藤原氏と平泉 3. 平氏と六波羅 4. 源氏と鎌倉
-
- 問2 平安時代に紫式部によって執筆され、唐などの中国文化をもとに日本の生活や感情に合わせて発展した文化を代表する長編小説として正しいものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2025年 熊本県公立入試 類似)
1. 徒然草 2. 枕草子 3. 源氏物語 4. 平家物語
-
- 問3 平安時代後期に白河上皇が始めた、天皇が位を譲った後も上皇（太上天皇）として、摂政や関白の力を抑えながら政治の実権を握る形態を何とよいか、名称を答えなさい。 (2022年 大分県公立入試 類似)
1. 摂関政治 2. 院政 3. 親政 4. 武家政治
-
- 問4 平安時代の政治家である藤原実資の日記には、藤原道長が「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも なしと思えば」と詠んだ和歌が記されています。このように、満月を自分の権力に例えるほどの全盛期を迎えた藤原氏の時代背景の中で成立した、王朝文化を代表する作品はどれですか。 (2023年 山梨県公立入試 類似)
1. 風土記 2. 平家物語 3. お伽草子 4. 源氏物語
-
- 問5 平安時代初期の仏教は、奈良時代の仏教が政治に深く関わったことへの反省から、人里離れた山奥に寺院を建立して厳しい修行を行うという特徴を持っていました。この時期に、現在の和歌山県にある高野山に金剛峯寺を建て、真言宗を広めた人物は誰ですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 鑑真 3. 空海 4. 最澄
-
- 問6 平安時代の政治において、藤原氏による摂関政治が全盛期を迎えていた時期の社会背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。この時期には、1053年に建立された平等院鳳凰堂に代表されるような、極楽浄土を願う信仰も広まりました。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
1. 大陸文化の影響を消化し、かな文字による文学や日本独自の美意識が反映された文化が発展した。 2. 遣唐使を通じて唐の進んだ制度や仏教文化を積極的に取り入れ、国際色豊かな文化が形成された。 3. 武士が政治の実権を握り、素朴で力強い文化が東国を中心に広まった。 4. 禅宗の影響を強く受け、水墨画や茶の湯などの簡素な美しさを尊ぶ文化が形成された。
-
- 問7 現在の十円硬貨にもデザインされている、京都府宇治市に位置する平安時代の建築物の特徴を正しく説明したものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 二重の屋根を持つ金堂や五重塔が配置され、飛鳥時代の様式を伝える世界最古の木造建築物として知られる。 2. 漆塗りの上に金箔を貼り巡らせた三層の楼閣建築で、庭園には全国の守護大名から献上された石が配置されている。 3. 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。 4. 急な斜面に突き出すように建てられた「舞台造」が特徴で、重厚な瓦屋根と巨大な柱で支えられている。
-
- 問8 院政が行われていた時期、有力な寺院は広大な荘園を領有し、経済力を背景に独自の武力を持つようになりました。当時の有力者が「思い通りにならないもの」の一つとして挙げた、この武装した集団の名称と、その活動内容の説明として正しいものを次の中から選びなさい。 (2019年 島根県公立入試 類似)
1. 「僧兵」と呼ばれ、延暦寺などの大寺院を拠点に、神木や神輿を担いで朝廷に無理な要求を突きつける「強訴」を行った。 2. 「悪党」と呼ばれ、幕府の支配に従わずに荘園領主の年貢納入を妨げるなど、社会秩序を乱す行動をとった。 3. 「足軽」と呼ばれ、特定の拠点は持たず、集団で行動して戦場での放火や略奪を主な活動とした。 4. 「武士」と呼ばれ、上皇の身辺を警護する「北面の武士」として組織され、朝廷の軍事力を支えた。
-
- 問9 平清盛が最高官職に就任したのち、さらに強力な政治的権限を獲得するために用いた手法の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 征夷大將軍の称号を得て独自の武家政権を樹立した。 2. 全国の地頭から年貢を徴収する権利を独占し、経済的基盤を固めた。 3. 自分の娘を天皇のきさきにし、天皇家の親戚となることで権力を強めた。 4. 院政を行う上皇を排除し、すべての貴族を自らの家臣にした。
-
- 問10 日本の平安時代中期から後期における世界情勢について、当時の中国大陆の状況を説明した文として正しいものを選びなさい。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
1. 律令制度を完成させた唐が、東アジアの広い範囲を支配していた。 2. 漢が滅んだ後、魏・呉・蜀の三つの国が争う時代であった。 3. チンギス・ハーンがモンゴル帝国を築き、元が中国を支配した。 4. 唐が滅んだ後の分裂状態を解消し、宋が中国を統一した。
-
- 問11 平安時代の政治の変遷を示す資料において、藤原道長や頼通の時代から約100年後の状況として、白河・鳥羽・後白河の3名に共通する、政治の実権を握る上での立場を何とよいか。 (2022年 大分県公立入試 類似)
1. 関白 2. 執権 3. 將軍 4. 上皇
-
- 問12 日本の有形文化財の分類において、奈良県の東大寺の大仏と並び、東北地方の代表的な歴史的建造物として岩手県に現存する中尊寺金色堂があります。この建物を建立し、本拠地である平泉を拠点として12世紀に三代にわたって繁栄した一族を選んでください。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
1. 平氏 2. 北条氏 3. 奥州藤原氏 4. 太宰府の官人
-
- 問13 12世紀後半、平清盛を中心とする平氏政権から、源頼朝による鎌倉幕府へと権力が移行した背景や仕組みについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 平氏は天皇を退位させて自ら天皇の座に就こうとしたが、源頼朝が朝廷の伝統を守るために立ち上がり、全国の貴族から熱烈な支持を得て勝利した。 2. 平氏は貴族のような官位を得ることに注力して地方武士の不満を招いたが、源頼朝は守護・地頭の設置を認めさせるなど武士の権利を守る仕組みを整えた。 3. 平氏は保元・平治の乱の直後に鎌倉幕府を開いたが、承久の乱で敗北したため、源氏が新たに征夷大將軍となって幕府を引き継いだ。 4. 平清盛は日宋貿易を独占して地方武士を支配したが、源頼朝は平将門の乱の際に確立された「公事」の制度を用いて武士の支持を集めた。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 奥州藤原氏と平泉	陸奥国（現在の東北地方）では、11世紀末から12世紀にかけて奥州藤原氏が勢力を拡大しました。彼らは京都の文化を吸収しつつ、平泉を拠点に中尊寺や毛越寺などを建立し、仏教の教えに基づく平和な理想郷を目指しました。これら平泉の文化遺産は、その歴史的価値から世界文化遺産にも登録されています。
問2	答え 3 源氏物語	紫式部によって書かれた物語は「源氏物語」であり、貴族社会の様子や情念を描いた国風文化の代表作です。なお、「枕草子」は清少納言による随筆、「平家物語」は鎌倉時代の軍記物語、「徒然草」は鎌倉時代末期の吉田兼好による随筆です。
問3	答え 2 院政	1086年に白河上皇が始めた政治体制です。それまで藤原氏が摂政や関白として政治を動かしていた摂関政治に対し、天皇の父や祖父である上皇が自ら政治を行うことで、藤原氏の影響力を排除し、皇室に実権を取り戻そうとしました。
問4	答え 4 源氏物語	藤原道長が詠んだ和歌は、摂関政治によって権力の絶頂にいた藤原氏の状況を象徴しています。この時期に栄えた国風文化の代表作が『源氏物語』です。他の選択肢について、『平家物語』は武士が台頭する鎌倉時代の作品であり、『お伽草子』は室町時代に流行した物語、『風土記』は奈良時代に各地の伝承などをまとめた報告書です。
問5	答え 3 空海	平安時代初期、遣唐使として唐に渡った空海は、帰国後に高野山（和歌山県）を拠点として真言宗を開きました。これまでの都市型の仏教とは異なり、山の中で修行に励むスタイルは、当時の平安文化の大きな特色の一つとなりました。同じ時期に活躍した最澄は、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を広めています。
問6	答え 1 大陸文化の影響を消化し、かな文字による文学や日本独自の美意識が反映された文化が発展した。	摂関政治の全盛期は国風文化の円熟期にあたります。この時期、紫式部による『源氏物語』や清少納言による『枕草子』といった、かな文字を用いた文学作品が誕生しました。また、建築面では阿弥陀如来を祀る平等院鳳凰堂が建立されるなど、日本の風土に根ざした貴族文化が花開きました。
問7	答え 3 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。	平等院鳳凰堂は、阿弥陀如来が住む極楽浄土の宮殿を模して造られました。大きな池の中に島を設け、そこに建物を配置することで、水面に建物が映り込むように設計されています。この左右対称の美しい構造は、当時の貴族が好んだ寝殿造の影響を強く受けており、当時の高度な建築技術と美意識を現代に伝えています。
問8	答え 1 「僧兵」と呼ばれ、延暦寺などの大寺院を拠点に、神木や神輿を担いで朝廷に無理な要求を突きつける「強訴」を行った。	院政期の大寺院は、僧侶でありながら武器を持った「僧兵」を抱え、宗教的な権威を利用して政治に介入しました。彼らは仏や神の力を背景に、神木や神輿を先頭に立てて京都へ押し寄せ、上皇や貴族に自分たちの要求を認めさせる「強訴（ごうそ）」を繰り返しました。白河上皇は、鴨川の水の流れ、双六のさいの目、そしてこの比叡山延暦寺の僧兵（山法師）だけは、自分の意のままにならないと嘆いたという逸話が残っています。悪党は鎌倉末期の新興勢力、北面の武士は上皇が僧兵に対抗するために組織した警護兵を指します。
問9	答え 3 自分の娘を天皇のきさきにし、天皇家の親戚となることで権力を強めた。	平清盛は太政大臣となった後、かつての藤原氏による摂関政治にならい、自らの娘を天皇のきさきとすることで天皇家の親戚（外戚）となり、政治的な影響力を一層高めました。
問10	答え 4 唐が滅んだ後の分裂状態を解消し、宋が中国を統一した。	10世紀後半、長らく続いた混乱期を收拾して成立したのが宋です。平安時代の日本では、寛平の遣唐使廃止（894年）の後、大陸との公式な国交は途絶えていましたが、宋の商人による民間貿易（日宋貿易）は活発に行われており、陶磁器や宋銭などが日本へもたらされていました。
問11	答え 4 上皇	白河・鳥羽・後白河の3名は、いずれも天皇の位を退いて「上皇」という立場になり、自分の居所である「院」において政治を行いました。この時期は、天皇よりも上皇が強い権力を持つことが通例となりました。
問12	答え 3 奥州藤原氏	現在の岩手県平泉町を本拠地とした奥州藤原氏は、清衡、基衡、秀衡の三代にわたり、東北地方で独自の文化を築き上げました。中尊寺金色堂は、その繁栄を象徴する豪華な阿弥陀堂であり、奥州で産出された豊富な金がふんだんに使われています。選択肢にある太宰府は九州の政治拠点であり、平泉とは地理的に全く異なる場所です。
問13	答え 2 平氏は貴族のような官位を得ることに注力して地方武士の不満を招いたが、源頼朝は守護・地頭の設置を認めさせるなど武士の権利を守る仕組みを整えた。	平氏は保元・平治の乱を経て権力を握りましたが、その手法は高い官位を独占するなど貴族的な政治に近いもので、土地の支配権を巡って対立していた地方武士（御家人）の期待に十分応えるものではありませんでした。これに対し、源頼朝は平氏を倒した後、朝廷から守護・地頭の設置権を獲得し、武士の土地支配（本領安堵）を保障する仕組みを構築したことで、武士階級からの強固な支持を得ることに成功しました。